

第1回 石巻市震災伝承検討委員会

平成25年11月27日

1. 「震災伝承」に係る 本市の方針について

震災施設伝承保全事業の位置付け

石巻市震災復興基本計画

施策大綱1 みんなで築く災害に強いまちづくり

1 新たな防災体制の構築

(4) 震災記録の伝承

震災の記憶

後世への伝承

犠牲者の追悼

災害アーカイブの公開と記録展示施設の整備

○震災記録収集整理事業

○(仮称)震災記録展示施設整備事業

慰霊碑の建立や震災施設の保存

○慰霊碑(モニュメント)建立事業

○震災施設伝承保全事業

震災施設伝承保全事業（重点プロジェクト）

未来への伝承プロジェクト

津波の恐ろしさを市民に、そして訪れる多くの人に伝承していくため、震災記念碑やメモリアルパーク等を整備するとともに、震災施設の伝承保存や震災体験を伝える仕組みを構築していきます。

シンボル公園整備事業（国・県・市）

震災復興のシンボルとなる鎮魂の森公園や多目的広場を備えた公園を整備

平成32年度まで

（仮称）震災記録展示施設整備事業（国）

災害アーカイブを広く公開するための施設を整備

平成32年度まで

震災施設伝承保全事業（市）

震災の記憶として残すべき被災建築物の存置・保存の選定

平成25年度まで

石巻市震災伝承検討委員会

【委員会の目的】

震災による深い傷跡、悲しみの記憶及び震災を通じて得た教訓を風化させることなく後世に伝えるための各種施策等を検討するとともに、専門的視点による効果的な提言を得ることを目的とする。

【所掌事項】

東日本大震災による傷跡、震災を通じ得られた教訓を風化させることなく後世に伝えるため、次に掲げる事項の検討及び提言を行う。

- (1) 震災の記憶を伝承するための手法等に関すること。
- (2) 震災遺構の選定及び保存方法に関すること。
- (3) その他震災伝承に関すること。

※震災遺構：東日本大震災の津波被害を受けた建物など、被災の記憶や教訓を後世に伝える構造物等をいう。

2. 「震災伝承」に係る 各被災地の現状及び課題

岩手県

名称／写真

現況課題等

大槌町 旧役場庁舎



写真: 大槌みらい新聞 (2013/05/02)

- ・「大槌町旧役場庁舎検討委員会」を設置し、保存か解体かの議論が行われた
- ・旧役場庁舎周辺を「震災犠牲者の鎮魂の場」、「後世への伝承・防災教育」、「町の歴史を踏まえた公園として利用」する提言とともに一部保存する方針を決定
- ・保存のための調査、整備費用は国の復興交付金があてられるよう国に要望

宮古市 たろう観光ホテル



写真: 産経新聞 (2013.11.11)

- ・鉄骨造6階建てで4階以上はほぼ当初の状態に残されており、ホテルは保存される見通しで、「三陸ジオパーク」の構成遺産に認定
- ・宮古観光協会の主催で、防潮堤とともに「学ぶ防災」プログラムとして防災教育を実施
- ・土地、建物の取得費約7900万円を市が負担して、保存整備を急ぐ。国に工事費等の支援申請中
- ・自由に立ち入ることのできる状態になっており、安全面に課題を有している

岩手県

名称／写真

陸前高田市 気仙中学校



写真: 株式会社気仙タクシー ホームページ

現況課題等

- ・鉄筋コンクリート3階建て
- ・解体する予定であったが、「奇跡の一本松」と併せて国営公園として整備することを国に要望している
- ・防災教育の場として活用を検討している
- ・長期的な維持管理費用、防犯面に課題

陸前高田市 下宿定住促進住宅



写真: 株式会社気仙タクシー ホームページ

- ・鉄筋コンクリート5階建て
- ・4階部分まで浸水し、市は「津波襲来時の高さがひと目で分かる」建物として保存に向けた検討を進める方針
- ・長期的な維持管理費用、防犯面に課題

岩手県

名称／写真

陸前高田市 道の駅 高田松原タピック45



陸前高田市 陸前高田ユースホステル



写真: 株式会社気仙タクシー ホームページ

現況課題等

- ・「奇跡の一本松」の近くに位置する
- ・「奇跡の一本松」と併せて国営公園として整備することを国に要望している
- ・津波の脅威を伝える施設としての活用を検討している
- ・長期的な維持管理費用、防犯面に課題

宮城県

名称／写真

山元町 中浜小学校



写真: 第1回山元町震災復興会議【被災状況の整理】
(平成23年6月19日 山元町)

現況課題等

- ・2階建ての校舎は津波で水没した。児童57人を含む約90人が屋上に避難し、全員無事であった。宮城県南部では数少ない遺構
- ・山元町内では被災の状況を伝える唯一の場所として認識されている
- ・見学者が多く、立ち入り禁止の校舎内に入る人も多く、町は対応を急ぐ

山元町 津波湾



写真: 南三陸海岸ジオパーク準備委員会

- ・「南三陸海岸ジオパーク構想」(気仙沼～山元町)の一部
- ・地質学的遺構を防災教育の場として活用する等の提案がある
- ・ジオパークとしての活動母体、人的資源、拠点施設等の整備必要
- ・経済的資源や自治体間での諸問題の調整が大きな課題

宮城県

名称／写真

仙台市 荒浜小学校



写真: 第1回仙台市震災復興メモリアル等検討委員会
(平成25年7月2日 仙台市復興事業局震災復興室)

現況課題等

- ・鉄筋コンクリート造4階建てで、2階まで浸水。児童や住民約300人が避難
- ・仙台市としては、震災遺構として残す方針
- ・遺構として保存できるかどうかの調査のため、構造診断を実施中

仙台市 南蒲生地区



写真: 南蒲生/砂浜海岸エコトーンモニタリングネットワーク

- ・震災直後から地形、水環境、生物等の生態系の再生が継続的にモニタリングされているエリア
- ・モニタリング成果をもとに「自律的再生を尊重した多様性・多機能海岸エコトーンの創出」に向けた提案と実践の実施を目的とする
- ・周辺エリアのガレキ処理、防潮堤の工事、海岸林の盛り土など復興事業が進んでいるため、安全性の確保が難しく、現在は開放的に利活用できていない

宮城県

名称／写真

女川町 交番・女川サプリメント・江島共済会館



現況課題等

- ・津波によって転倒した鉄筋コンクリート造(女川交番・女川サプリメント)と鉄骨造(江島共済会館)の建築物
- ・津波の挙動研究等、学術的価値が高く、今後の津波被害軽減のための基準を作る上でも大変貴重なものとされている
- ・町は「女川町メモリアル施設保存事業」として保存の方向性を示し、遺構保存事業募金を実施している
- ・町実施の調査結果によると、鉄骨造の江島共済会館は耐久性の点で長期間の保存は難しいとみられる
- ・他の鉄筋コンクリート造の二つの建築物は、補強すれば保存可能だが、補強費用だけで一つ当たり数千万円はかかる見込み
- ・住民においても保存すべきか、解体すべきか、意見が分かれており、保存費用についても課題がある
- ・女川サプリメントは、護岸工事の妨げになるため、早期判断が必要

宮城県

名称／写真

南三陸町 高野会館



写真: 日本経済新聞(2013/8/7)

現況課題等

- ・鉄骨造4階建ての結婚式場で、所有する会社が当面の間は解体しない方針を出している
- ・一切手を加えず、保存のための整備、補強などはしない
- ・民間企業が管理や費用負担を続けるのは難しい

南三陸町 防災対策庁舎



- ・町としては解体の方針を決めている
- ・11月15日、県が12月に保存すべき遺構を検討する有識者会議を新設する方針を固める。このため、宮城県は町から解体を委託されていたが、有識者会議の意見を待って判断することとし、解体作業は当面見合わせる見通し

宮城県

名称／写真

現況課題等

気仙沼市 共徳丸



- ・第18共徳丸は、全長60メートル、総トン数は330トンの大型巻き網漁船で、東日本大震災の津波によって、港から750メートル離れた市街地まで運ばれた
- ・平成25年7月に市内の全世帯を対象としたアンケートで「保存の必要はない」とする回答が約7割
- ・これを受けて、平成25年9月から解体作業が始まり、現在解体撤去は完了している

気仙沼市



横綱 秀ノ山雷五郎像

- ・「陸中海岸国立公園」改め「三陸復興国立公園」の最南端に位置する岬、岩井崎にある「第9代横綱 秀ノ山雷五郎像」と「龍の形の被災松」



岩井崎 龍の松

- ・いずれも津波を受けたが奇跡的に残った
- ・復興のシンボリック的存在として、また観光スポットとして既に認識されている

写真: 気仙沼市ホームページ

石巻市

【震災伝承事業（震災記録収集整理事業）】

震災の記録を保存し、復興への道程をデジタルアーカイブとして後世に伝え、今後の防災事業等の一助とする。

- 1 震災記録写真、動画データ等の収集・整理
- 2 被災体験談（オーラルヒストリー）収集事業
 - ・被災した市民の被災体験談をビデオカメラで撮影し保存
- 3 震災関連資料のデジタル化
 - ・記者投げ込み資料、避難所人数調べ等のデジタル化
- 4 石巻市災害記録映像制作事業（DVD 3巻で構成）
 - ・被害状況、巨大津波のメカニズム、震災がもたらした各課題、避難所、ボランティア、ライフライン、災害医療、仮設住宅 等
- 5 アーカイブシンポジウム及びフォーラム開催（共催：独立行政法人防災科学技術研究所）
 - ・アーカイブ事例、パネルディスカッション
 - ・基調講演、被災体験談収録ビデオ上映及び被災復興写真展示

石巻市

名称／写真

石巻市 旧門脇小学校



現況課題等

- ・鉄筋コンクリート造3階建て
- ・津波と火災の被害を受けた建築物
- ・市は、解体する方針であったが、保存を求める声があがっている

石巻市 観慶丸商店



- ・1930年(昭和5年)に建設された木造3階建ての市内最初の百貨店
- ・国の登録有形文化財に申請し、歴史文化財の展示施設として、市による管理・運営を行っていく方針

石巻市

名称／写真

現況課題等

石巻市 旧東北実業銀行石巻支店



・1925年(大正14年)に建てられた鉄筋コンクリート造3階建ての近代建築

・津波による旧北上川の逆流で、1階部分は浸水した

石巻市 旧石巻ハリストス正教会



・1880年(明治13年)竣工。1978年の宮城県沖地震で被災し、1980年に修復、石巻市指定有形文化財となる

・津波により2階まで冠水したが流失は免れた

・市は解体した上で復元する方針

石巻市

名称／写真

石巻市 本間家土蔵



現況課題等

- ・1897年(明治30年)の建築
- ・津波や流失家屋の激突にも耐えて残った
- ・石巻震災土蔵メモリアル基金を募り、土蔵修繕工事が進行中

石巻市 住吉公園



- ・「いしのまき水辺の緑のpromenade計画」において、昔を偲ばせる水辺との繋がりを重視した空間を創出するとともに、「雄島」や「巻石(まきいし)」を再生する方針
- ・石巻の名前の由来である「巻き石」の保存
- ・住吉公園(雄島)は、数々の歴史・史跡があり、中瀬と一体となった拠点整備が必要

石巻市

名称／写真

石巻市 中瀬北地区



現況課題等

- ・1m程度地盤が沈下、満潮時には地面がほぼ水面下に。地盤沈下の被害が明確に分かる
- ・中瀬地区は、石巻市震災復興基本計画において、震災復興のシンボルとして、これまでの石巻市の歴史を継承・発信していく観光拠点として整備する方針

石巻市 牡鹿地区



おしかホエールランド

歓迎アーチ

- ・おしかホエールランドは、解体済、新設する海の駅に機能に移転する方針
- ・敷地内に展示されていた捕鯨船第16利丸(全長約70メートル)は現地保存
- ・鮎川地区の観光栈橋に残る歓迎アーチは、周囲の地盤沈下の状況を確認できる。現地保存の方針

3. 「震災伝承」に係る 市民意見アンケート（案）

アンケート概要

○アンケート対象者の抽出

- 住民基本台帳からの無作為抽出による2000名を対象
- 18歳以上を対象
- 地区に偏りがないように配慮する

○配布方法

- 郵送による配布回収

○発送予定時期

- 平成26年1月予定

アンケートの項目 ～その1～

ア アンケート回答者について

ご自身について

- 性別(①男／②女)
- 年齢(①10代／②20代／③30代／④40代／⑤50代／⑥60代／⑦70代以上)

お住まいについて

- 被災の程度
(①流出／②全壊／③半壊／④床上浸水／⑤床下浸水／⑥軽度の被災／⑦被害なし／⑧その他)
- 震災前の所在地
(①石巻地区／②河北地区／③雄勝地区／④河南地区／⑤桃生地区／⑥北上地区／⑦牡鹿地区)

アンケートの項目 ～その2・その3～

イ 「震災を伝えること」の必要性

- ①必要である
- ②必要ではない

ウ 震災の記憶を伝承するための手法＜複数選択式＞

- ①記録として保存し、写真・画像(アーカイブ)で伝える
- ②復興祈念公園等にモニュメントを設置
- ③被災した構造物を震災遺構として保存
- ④被災した体験を語り、震災の記憶や記録を後世に伝える
- ⑤その他

アンケートの項目 ～その4・その5～

エ 「震災遺構」のイメージとしてふさわしいもの〈複数選択式〉

- ①人命を守ったもの
- ②防災上の反省を後世に伝えるべきもの
- ③自然災害の恐ろしさを後世に伝えるもの
- ④津波浸水の痕跡を後世に伝えるもの
- ⑤震災以前の市民生活の営みを伝えるもの
- ⑥その他

オ 震災遺構の候補となり得る被災建造物等の保存の有無 〈択一式〉（写真・位置図は次項参照）

- ①住吉公園
- ②旧東北実業銀行石巻支店
- ③観慶丸商店（文化財として保存）
- ④本間家土蔵
- ⑤旧門脇小学校
- ⑥中瀬北地区
- ⑦旧石巻ハリストス正教会（文化財として保存）
- ⑧旧おしかホエールランド捕鯨船第16利丸・歓迎アーチ
- ⑨その他（震災遺構として検討すべき被災建造物等）

震災遺構候補地

① 住吉公園



② 旧東北実業銀行石巻支店



③ 親慶丸商店



④ 本間家土蔵



⑤ 旧門脇小学校



⑦ 旧石巻ハリストス正教会



⑥ 中瀬北地区



⑧ 旧おしがホエールランド



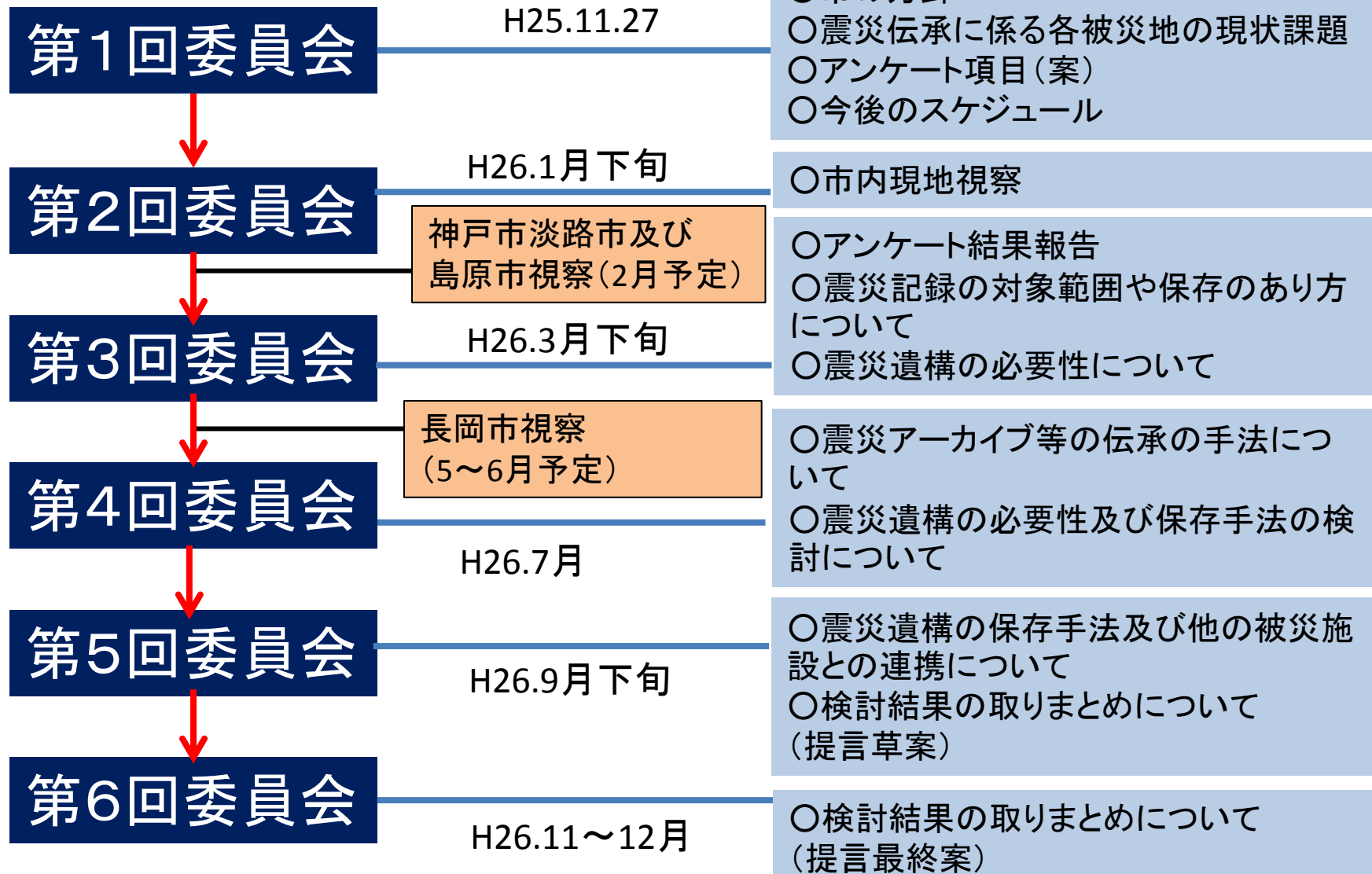
アンケートの項目 ～その6～

カ 震災遺構を保存する場合、保存の手法 ＜遺構別複数選択式＞

- ①完全な形での現地保存
- ②遺構の一部を現地保存
- ③移築した上での保存
- ④遺構の一部をメモリアルとして復興祈念公園等で保存
- ⑤その他

4. 今後のスケジュールについて

今後のスケジュール



先進地視察候補について（案）

視察先①: 兵庫県神戸市・淡路市(阪神・淡路大震災)

視察先②: 長崎県島原市・南島原市(雲仙普賢岳噴火)

実施時期: 平成26年 1月下旬 (①と②と合わせて2泊3日)

＜神戸市・淡路市: 視察先候補施設＞

1. 阪神淡路大震災記念 人と防災未来センター:

⇒ 阪神・淡路大震災から得た教訓を世界共有の財産として後世に継承し、国内外の地震災害による被害軽減に貢献すること、及び生命の尊さ共生の大切さを世界に発信することを目的に創設された施設



2. 神戸港震災メモリアルパーク(メリケンパーク内):

⇒ メリケン波止場の一部を被災したままの状態に保存。常時開放型無料見学施設



先進地視察候補について（案）

＜神戸市・淡路市：視察先候補施設＞

3.野島断層保存館(北淡震災記念公園内):

⇒地震で現れた野島断層を、ありのままに保存・展示



4.神戸の壁(北淡震災記念公園内):

⇒戦火と阪神大震災の大火に耐えた「防火壁」。
神戸市長田区から移設



先進地視察候補について（案）

＜島原市・南島原市：視察先候補施設＞

1.雲仙岳災害記念館：

⇒噴火の災害の教訓を蓄積・発信する施設。
火山や防災について、11のゾーンに分けて
展示



2.土石流被災家屋保存公園：

⇒土石流により被災した家屋を保存展示



先進地視察候補について（案）

3.旧大野木場小学校被災校舎

⇒火災流により全焼した小学校。火砕流遺構、砂防学習拠点のひとつとして保存



4.火砕流最長到達点：

⇒最も火砕流が遠くまで到達した場所として、重要なライフラインである国道を火砕流が越えたという点で、その後の防災対策に大きな影響を及ぼした。



先進地視察候補について（案）

5.千本木展望所:

⇒火砕流被災地。一部地域において、火砕流に伴う堆積物をそのまま保存



先進地視察候補について（案）

視察先③：新潟県長岡市（新潟県中越地震）

実施時期：平成26年 7～8月（1泊2日を予定）

＜長岡市：視察先候補施設＞

1.長岡震災アーカイブセンター「きおくみらい」

⇒震災の知見や教訓を蓄積・発信



2.木籠メモリアルパーク:

⇒河道閉塞により集落ごと水没した家屋を被災したままの状態で保存



先進地視察候補について（案）

＜長岡市：視察先候補施設＞

3. 妙見メモリアルパーク:

⇒ 震災で犠牲になられた方々の慰霊の場・災害の記憶を伝える場



4. おぢや震災ミュージアム「そなえ館」:

⇒ 伝承と防災学習の拠点施設。地震発生から時系列に展示



5. 震央メモリアルパーク:

⇒ 震源地の保存・伝承のため、遊歩道や東屋を整備

